

Qi センター設立物語

コミーは新商品を生み出し、世界のユーザーに役立ててもらおうことを目指しています。そのためにはどんどんアイデアを出し、試作し、商品化する場所が必要です。そこで、新しい技術拠点「Qi (Question & Innovation) センター」を開設しました。

コミーが発展できたのは、たくさんのすばらしい技術者・マーケッター・ユーザーと出会うことができたおかげです。Qi センターは単に技術力を高めるだけの場所ではなく「出会いの喜びを味わえる場」「関わる人すべてが楽しくなるような場」にしていきたいです。

「Qi センターでこんなことをやってみたら?」「こんなものがあったら面白いよ!」というアイデアをいろいろ聞かせていただけたらありがたいです。



小さなL室 (Komy Laboratory) を借りた

2013年

有能な技術者を求めて、技術サロンを開催したが……

2011年9月頃から2014年2月まで、顧問である佐藤修さんの広い人脈から良い技術者との出会いがないか探していた。多くの技術者の方々との交流はできたが、具体的な商品試作まで進めなかった。

なぜ、具体的な商品化まで進まなかったのか？ 「試作する道具がすぐ使える環境、商品化したいと高い志がある人が集まる環境が足りないのでは？」と考えるようになっていった。

本社近くに賃貸でL室 (Komy Laboratory) を借りた

2013年2月に「新商品・新技術が毎年10ずつ生まれ、関わる人が楽しくなる開発環境をつくる」を目的に掲げた。新商品開発のため、有能な方々が集まり、悩みや、やりたいことを語り、試作できる場所が必要だと考えた。

2013年3月14日に本社近くの倉庫（約37坪）を賃貸契約し、技術員1名を常駐させてゆっくりと商品開発ができる環境を整えていこうと考えた。

定期的に出会いの場をつくりたい (L室出会いの場)

有能な技術者に会い、お互いの悩みを話しながら解決できないか？ 不定期だが、L室で土曜日に交流する機会「L室出会いの場」を設けた。ここで人のつながりを広めたい。

2013年10月から2014年6月までに計5回交流会を実施して30名近くの方々が参加していただき、その中で田中光利さんが顧問になってくれた。「L室出会いの場」だけでなく、人とのつながりで宮川正さん（当時 経済産業省製造産業局長）から松島茂先生（当時 東京理科大学大学院 MOT 教授）、小河義美さん（株式会社ダイセル取締役）に出会えたり、ほかにも鶴田国昭さん（元 コンチネンタル航空上席副社長）から松金久雄さん（元 株式会社ジャムコ）、小美濃芳喜さん（元 学研『大人の科学』教材開発プロデューサー）に出会えたりすることができた。



「L室出会いの場」にご参加いただいた方々。東京理科大学大学院 MOT 専攻・松島先生と学生のみなさん、日印ビジネス支援協会の方々、顧問の田中光利さんなど

L室が狭くなった。広い賃貸を探したが…… 2015～2016年

当初は、技術員1名でスタートしたL室だが、本社技術員が席を移動、新入社員も増えて、2015年8月で4名に増えた。

また、2015年2月には国立研究開発法人産業技術総合研究所のつながりから短時間で圧縮成形する機械を導入、技術試作品も増えて、手狭になってきた。

京浜東北線沿線・川口～赤羽～上野の準工業賃貸物件を探したが、あまりよい物件がない

試作ができ、有能な方々が集まりやすい、本社から移動1時間以内の賃貸物件を探した。知人や近くの不動産屋を訪ねて10数件の物件を見たがなかなかよい物件がない。2015年12月には、ある程度よいと思った物件が見つかったが、賃貸判断を迷っている間にほかに決まってしまった。

交流会で「技術力を3倍にする」と宣言

「2016 コミー交流会」で、試作品、開発品、過去の商品等を来客の方々に見てもらった。また「有能な技術者が集まり、新商品・新技術がドンドン生まれる開発環境をつくりたい」と伝えた。



2016 コミー交流会で展示した超大型 FF ミラー。このほかにも、試作品などを展示した

板橋にいい物件がありそう。数件見て決めようとしたが、交通の便が悪い

2016年3月、板橋にいい物件を見つけた。コミー顧問の方も近くに住んでいるし、賃貸契約をしようとした。しかし、毎日、本社と行ったり来たりすることを考えると、本社に近い方がよいと契約を見送った。

もっと本社近くはないかと、川口近郊を改めて探し直したが、よい物件が見つからない

2016年4月、本社より車で15分以内を条件として、懇意にしている不動産屋や工場倉庫専門の不動産屋に依頼し、一緒に物件を見に回ったり、インターネットで情報を探したりした。本社に近いと手狭で、ちょうどよい大きさだと本社から遠い。簡単にはよい賃貸物件が見つからないことがわかった。

購入を考えてみたら……金融機関に情報がほしいと声をかけたら、すぐに来た

2016年6月、「賃貸では見つからない。ほかに情報元がないのか？ 土地建物の購入まで視野に入れたら、よい物件が見つからないか？」と考えた。

購入の検討していることを、地元や取引のある金融機関さん（埼玉りそな銀行、青木信用金庫、川口信用金庫、巣鴨信用金庫、武蔵野銀行）に聞いてみたら、各行が物件を紹介してくれた。

廃業を検討している段ボール工場が見つかった

その中で、青木信用金庫さんが紹介してくれた物件がよさそうだ。廃業しようとしている段ボール製函工場の情報は不動産屋にはわからない。

地元信用金庫さんの情報量とその深さに驚いた。物件は、築30年3階建て鉄筋コンクリート造、延床約1050m²。顧問のみなさん、不動産関係の知人、社長、役員、技術員で数回見学させていただき、2016年8月には売買契約、11月に引き渡しが決まった。

改修工事の業者選定

元段ボール製函工場は、外装、内装とも劣化が著しく、据え付けてあるリフトも最低限の修繕しかされていなかったため、改修工事業者を選定することにした。

Qiセンター開設までの経緯

2013年	3月14日	L室賃貸契約
	10月19日~	L室出合いの場（～2014年6月15日）
2016年	2月~	板橋区を中心に賃貸探し
	3月~	本社近くの賃貸探し
	6月~	購入も視野に入れて金融機関に物件紹介依頼
	6月16日	元段ボール製函工場（後のQiセンター）見学
	6月20日	不動産のプロ原口悟さんの意見を聞く
	7月7日	顧問アドバイスを聞く
	7月14日	最低限必要な改修工事内容を検討
	8月1日	アスベストを含有していないことを確認
	8月3日	不動産売買契約
	8月22日	レイアウト検討、設備設置イメージを現場で確認
	9月13日	外装工事業者を大和ハウスリフォームさんに決定
	9月15日	顧問アドバイスを聞く
	9月24日	技術員見学
	11月1日	電気保安設備改修の内容確認
	11月11日	工事日程調整、看板仕様検討
	11月22日	内装仕様概略検討
	11月29日	引渡し
	11月30日	リフト改修
	11月30日	看板仕様決め
	12月01日	受水槽清掃、外装工事着工
12月03日	内装仕様検討	
12月05日	引越見積もり現地確認	
12月06日	キュービクル改修工事現地確認	
12月17日	新L室のネーミングプレスト「Qi」に決定	
12月27日	Qi内装工事発注	
2017年	1月30日	外装工事完了
	3月6日	消防検査、機械搬入
	3月10日	引越
	3月14日	内装工事完了
	3月17日	キュービクル劣化更新工事

候補は、製函工場を建築した地元の建築屋さん、コミー本社を建築した大和ハウスさんのグループ会社である大和ハウスリフォームさん、コミー本社の小規模改修をしてくれている地元の工務店さんだったが、ブランド力がある大和ハウスリフォームさんに決めた。2016年12月から外装改修、2017年1月からは内装改修をおこなった。

回転看板は「?→!→?→!」

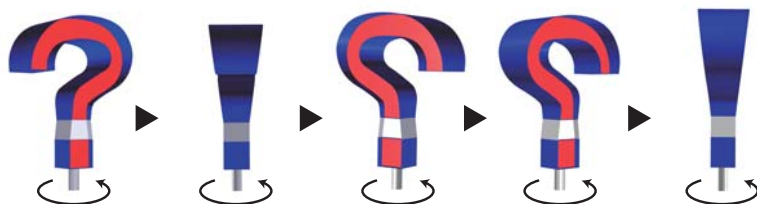
コミーの歴史は、看板業から始まっている。その後、回転看板用の回転装置を発明し、回転するミラー「回転ミラックス」を作るようになり、気くばりミラーのメーカーになった。

看板業から始まっているので、新しい建物には「象徴になるような看板」を作りたいと考えていた。前々から「?」を回転させると「!」になることを回転看板で表現したいと考えていたので、設置する看板は、回転する「?!看板」にすることにした。

コミーにとって、回転看板はお手の物。実は、高さ 10cm 程度の回る「?!看板」はすでに試作してできていた。あとはこれをどう大型化するかだ。

技術面は、顧問の竹井博幸さんに相談することにした。竹井さんは回転装置を作っている頃からお世話になっている人で、回転看板に必要な技術はすべて持っている。

竹井さんの協力で看板の設計ができたが、看板屋さんに頼む前に 60cm 程度の試作を自分たちで作って、本社 2 階に設置して周囲からどのように見えるか検証することにした。



回転看板のイメージ図。回転させると「?」が「!」になる。



本社 2F に設置した回転看板の試作

Komy Qi center とネーミング！

12月17日は Qi 記念日

コミーでは毎月第三土曜日を技術出社日としている。社長、技術員、技術顧問が集まり、集中して課題を解決したり、一人で抱えている課題の進捗を確認したりしている。その出社日で、新L室のネーミングをブレインストーミングしながら検討した。

2016年9月にFFミラーの知名度向上のため日本経済新聞で全面広告を出したが、購読者に見てもらえない。失敗してしまった。その原因は、面白くないからだと後からわかった。ネーミング案も「面白そう」から生まれてくるべきだと思っていた。

顧問の方が「“中央技術研究所”みたいなネーミングでは、そこで働く人たちの発想が縛られてしまう」という話を聞かせてくれた。

技術員が1人1つ以上ネーミング案を出した。その中で、「Qi = Question & Innovation」、建屋の名称は「Qi Center」という案にまとまった。

コミーはこれまでも「なぜ、なぜ、何故」から「感動」が生まれるロゴマークを使い、なぜと考える習慣が大事だとずっと言ってきた。Qには、Question、iには、interest、imagination、innovationなど、開発に必要な要素が含まれていると考えられる。

ブレストを実施した2016年12月17日を「Qi 記念日」にしたいと考えている。

コミーのロゴ



新しく考えた Qi のロゴ



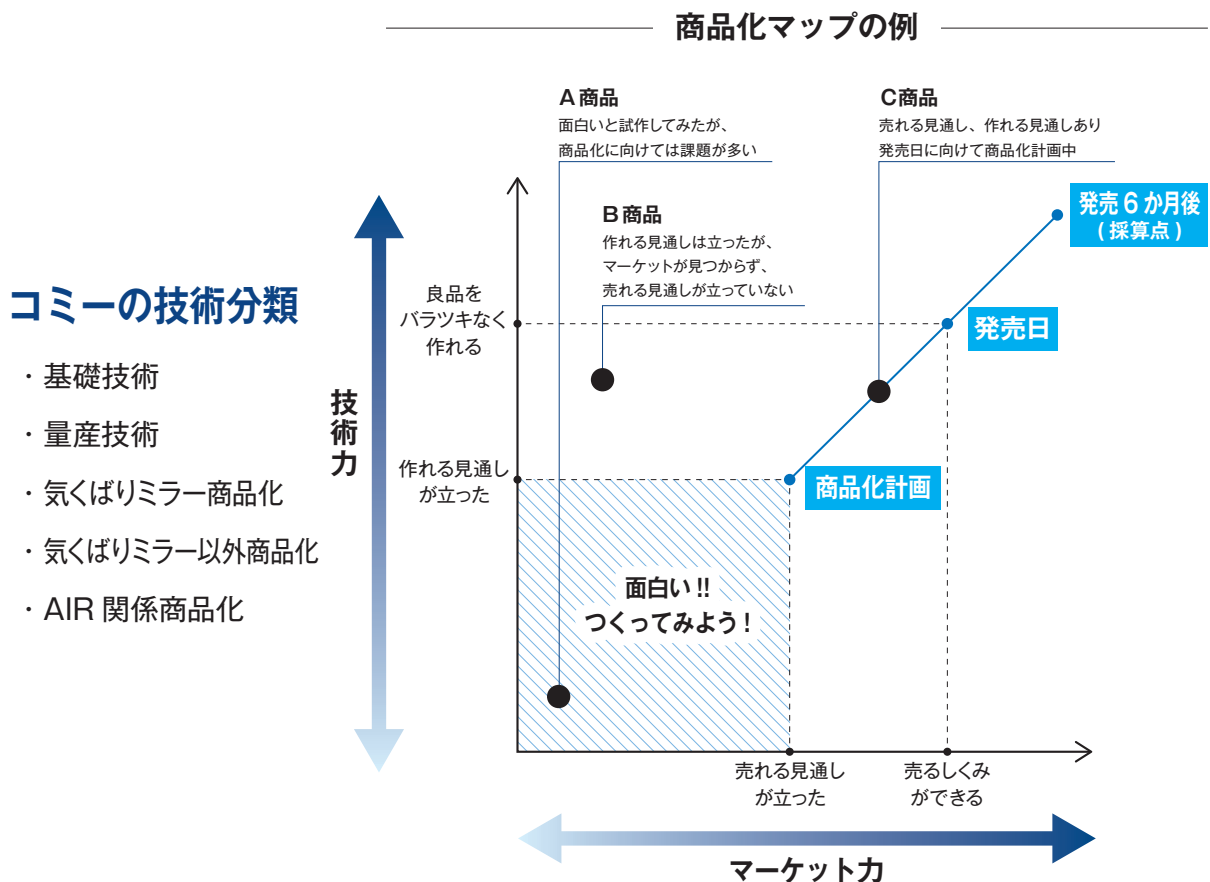
Qi センターは、次の3つを軸とした場所にしていきたいと考えている。

1. 商品開発の拠点

コミーが創業以来大切にしているのが「競争に費やすエネルギーを創造に費やすこと」だ。その「創造（商品開発）」の拠点となるのが Qi センターだ。

L 室時代から言っていたことだが、コミーの商品開発では「気くばりミラーを深める」「コミーの技術を生かした別のマーケットの商品開発」「コミーが文化を知っているマーケットでの商品開発」の3つがキーワードになると思う。

コミーの商品開発は、大企業のような「多くの人が買いたいものを競争しながらつくっていく」というものではなく、「千人に一人でもいい、長期にわたって役に立つものをつくる」というものだ。特に、相手の文化を知っている業界やそれに関連したマーケットに、長期的に役立つ世界初のオリジナル商品を生み出したい。そのためにはミラーを深めることが必要であり、ミラーに限らず面白いと思うものをドンドン試作し、実際に使ってもらいながら「仮説と検証」を繰り返していくことが大事だと思う。



商品開発は、マーケットと技術の両方が目標に達しないと見通しが立たないし発売もできない。コミーでは「商品化マップ」を使ってテーマごとにマーケットと技術の進捗を見える化している。

2. 異業種の情報交換の場

コミーがここまで発展することができたのは、素晴らしい技術者・マーケッター・ユーザーと出会うことができたおかげだ。Qiセンターも単に技術力を高めるだけの場所ではなく、お互いに出会いの喜びを味わえる場にしていきたい。また、要望があればコミーが今まで学んできた技術マーケット開発の方法を伝えていきたいと思う。

コミーはこれまでも「語志喜の会」「L室出合いの場」「国際箸学会」「講演会」などを行い、異業種交流を進めてきた。Qiセンターでは、これをさらに深めていきたい。技術に興味がある方、マーケティングが得意な方、デザインが得意な方、特定の業界に詳しくユーザーの立場から率直な意見を聞かせてくれる方など、熱意と誠実さを持ったさまざまな業種の方々が気軽に集まり、情報交換できる場になればと思う。

3. ものづくりの楽しさを体験できる場 STEM教育やワークショップなども……

ものづくりの原点は「楽しい、面白い」だと思う。Qiセンターでは、顧問や科学好きの外部の方などに協力してもらいながら、ものづくりの楽しさを伝える活動や、子ども向けにワークショップの開催などもできたらと思う。

<例>

・科学おもちゃのワークショップ

科学おもちゃコレクターの市原千明さんという方がいる。市原さんはただおもちゃを集めているだけでなく、身近な道具を使っておもちゃを手作りしたり、おもちゃを通して科学をわかりやすく解説したりするのが上手な方だ。各地でワークショップを開催していて、コミーでも一度講演してもらったことがある。

市原さんは、「Qiセンターという面白い場があるなら、そこで科学おもちゃ研究会、科学の見世物小屋、科学おもちゃ展覧会などをやってみたい」と言ってくれた。市原さんのような方と協力し合いながら、Qiセンターで面白いワークショップを開催できたらと思う。

市原千明さん（名古屋市在住 特別支援学校教諭 素朴な科学おもちゃの収集と開発をしている）

・STEM教育

STEMはScience（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の略。顧問の小美濃芳喜さんからは、「コンピューターを、はさみ、のり、紙と同じように道具として使えるようにする教育で、文科省も旗振りしている。プログラミング教育と勘違いされやすい」と教えてもらった。コミーでもSTEM教育にチャレンジし、子供たちが「発想、調査（計画）、試作（仮説・実施と検証、考察）、結果の発表」というプロセスを一通り体験できるようにしていけたらと思う。

小美濃芳喜さん（コミー顧問 元学研『大人の科学』教材開発プロデューサー）

コミー株式会社 所在地

Komy Qiセンター

JR 西川口駅 西口から
徒歩 10～15分

住所 〒332-0021
川口市西川口 6-6-15
TEL 048-446-9662



Komy 本社

JR 西川口駅 東口から
徒歩 10～15分

住所 〒332-0034
埼玉県川口市並木 1-5-13
TEL 048-250-5311



Komy Qi のうたができました

次のメロディーで歌ってみてください（著作権消滅になっています）

- ・リパブリック讃歌 ・一月一日 ・一寸法師 ・鯉のぼり ・こいのぼり ・われは海の子 ・隣組 ・日の丸のはた
- ・どこかで春が ・春が来た ・紅葉 ・おぼろ月夜 ・故郷 ・春の小川 ・うさぎとかめ ・鉄道唱歌 ・赤とんぼ

寅さんの啖阿売みたいに大声で口上調でしゃべってください（七五調です）

- ③ 面白い「人」 出会いましょう
面白い「もの」 会いましょう
面白そうなら すぐ試作
楽しい商品 生みましよう
(作詞：小宮山栄)
- ② 出会いとやる気 第一さ
出会いとやる気 第一さ
出会いとやる気 第一さ
- ① 私が生まれた 何故でしょう
私が育った 何故でしょう
商品生まれた 何故でしょう
商品育った 何故でしょう

Komy®

コミー株式会社

〒332-0034 埼玉県川口市並木 1-5-13
□代表（営業本部など） TEL：048-250-5311
□受注センター TEL：048-250-5317

コミー 検索 
FAX：048-250-5318（共通です）

お客様相談室 ☎0120-531-073

死角に気づき

身近なコンビニから航空機まで、コミーミラーは、安全・防犯・サービス・効率アップに役立っています。